

招 集 期 日	平成 2 8 年 7 月 1 3 日 (水)		開会の場所	教育委員室
開会の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 1 時 3 0 分	開 会 者	教 育 長
	閉会の時刻	午後 3 時 0 0 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	春 山 教 子 委 員	出 席	
岩本一盛教育長職務代理者	出 席	柿 沼 拓 弥 委 員	出 席	
古 市 明 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説 明 の た め の 出 席 者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	橋本教育総務課長	栗原学校教育課長
	小島学校給食センター所長	池澤生涯学習課長	奥野図書館長兼郷土資料館長	
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会		7 月 定 例 教 育 委 員 会 を 開 会		
日 程 第 1 前 回 会 議 録 の 承 認	教育長	<p>教育委員会の会議は原則公開であるが、人事に関する事件、その他の事件について出席委員の3分の2以上の多数で議決した時は、公開しないことができる。今回の日程で、非公開とすべき案件はないためすべて公開としてよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>		
	教育長	<p>6 月 定 例 教 育 委 員 会 の 会 議 録 の 承 認 に つ い て 諮 っ た。</p> <p>異議なしの声あり</p>		
	教育長	<p>前 回 会 議 録 は 、 承 認 さ れ た 旨 宣 し た。</p>		
	教育長	<p>報 告 事 項 1 に つ い て 、 学 校 教 育 部 長 な ら び に 生 涯 学 習 部 長 か ら 説 明 を 求 め た。</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 報告事項1 平成28年6月定例市 議会提出（教育委員 会関係）議案等につ いて</p>	<p>学校教育部長</p>	<p>永沼正人議員から、外国人居住者の状況等の1項目として外国人居住者における就学児童生徒の実情、進路等について一般質問があった。市内では小中学校6校に在籍する13名に対し3名の日本語指導員が学習指導を行っていること、給食については献立表に詳しく原材料等を記載し、宗教上食べることができない食材について判断できるように配慮していることを説明した。また、進路については、ある程度日本語を習得して受験に臨み、高等学校への進学を果たしていること、教育現場の課題については、保護者が日本語を理解しにくいケースがあり、正しく伝えることが課題であること、学校給食の改善要望については、現在のところ無いことを答弁した。</p> <p>同じく永沼正人議員から市内中学校に硬式テニス部を設置できないかという一般質問があった。今まで硬式テニス部がなかった理由については、硬式テニスはボールやラケットが重く、成長期の身体に負担がかかり、軟式テニスに比べ習得が難しいことや、防球ネットを高くする等の施設整備が必要となること、生徒や保護者から硬式テニス部創設について強い要望が無かったことを挙げた。また、テニスコートの整備状況については、南中学校6面、東中学校5面、西中学校6面となっている。西中学校では、コートの改修工事後22年が経過し、コートの中央が低い状況であるが、修繕しながら利用価値を高めていきたいと説明した。西中学校の大規模改修工事に合わせて、硬式テニス部でも使用できるようなクレークートを整備できないかについては、当面は敷地全体に渡る改修の予定がないこと、今後の施設設備の予算執行について優先順位を総合的に考え検討していくことを説明した。硬式テニス部の新設に向けた今後の方針については、生徒からの希望があれば検討していくと答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、組体操の安全管理についての一般質問があった。市内の小中学校の組体操の取組みについては、昨年度は小学校で7校が実施し、中学校では実施していないこと、練習時を含めた組体操での過去の事故の発生件数については、平成27年度は打撲1件、平成26年度は打撲3件、平成25年度は打撲1件であり、いずれも軽傷であったことを説明した。組体操を担当する教員が専門的な研修や講習を受けて指導しているかについては、全ての学校で注意点や配慮事項等の研修会を行っているこ</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>と、民間の組体操の講習会や実技研修会を行った学校があったことを説明した。羽生市教育委員会の学校管理下における組体操についての見解については、教育委員会では国や県の通知を踏まえ6月1日に市内全小学校に対し組体操の実施に伴う安全確保についての通知を発出したところであり、今後も各校の状況を把握し、児童生徒の安全安心を第一に考え指導していくと答弁した。</p> <p>同じく中島直樹議員から、通学路にある横断歩道の不備の把握状況について一般質問があった。教育委員会では昨年4月から6月にかけて各学校に通学路の点検を依頼し、危険箇所の把握に努めていた。危険箇所は6箇所報告があり、建設課と協力して対応し、既に5箇所が補修されている。その他登下校の指導中に気がついた箇所についても随時報告を受け、その都度対応していると説明した。議員の指摘は横断歩道等のラインが削れて消えているのではないかということであった。教育委員会でも確認を行い、不備が数多くあることを把握しているため、安心して登校できる通学路の整備ができるよう関係各課との連携を図っていくと答弁した。</p> <p>生涯学習部長 峯寄貴生議員から郷土芸能の伝承と郷土愛の醸成について一般質問があり、生涯学習部と学校教育部の見解を問われた。郷土芸能は地域の宝であり、多くの世代が触れ合うことで、絆を深め地域を元気にしていくことができるとも大切なものであると考えているが、昨今では後継者不足により保存活動が困難になってきている状況である。そのため、子ども達に郷土芸能に接する機会を提供し伝承に努めるため、地域の皆さんや小学校と連携を図りながら子ども郷土芸能入門教室を公民館等で開催する予定である。子ども達が地域に受け継がれた郷土芸能に触れることにより、生まれ育った郷土に誇りを持ち、次世代に伝えていけるよう、地域文化の振興と啓発に努めていくと答弁した。</p> <p>学校教育部長 まず、地域の郷土芸能を学校教育に活かすことは、郷土愛を醸成し、地域の学校づくりを推進する上で大変効果があると述べた。市内小中学校の現状については岩瀬小学校の白山太鼓、手子林小</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>学校の獅子舞や棒術の取組みは郷土芸能を伝承するよい機会である。社会科の学習においても副読本「はにゅう」で「ささらししまい」や「まわり地蔵」を取り上げ、市内の郷土芸能・伝統文化について学習し、さらに社会科や総合的な学習の時間では、地域で行われている郷土芸能や伝統行事などについて調べて発表する等の取組みを行っていることを説明した。今後も地域のニーズ、子どもたちの興味・関心等を考慮しながら郷土芸能に精通する地域人材も活用し、子どもたちの郷土愛をさらに醸成していくと答弁した。</p> <p>島村勉議員からトップアスリート育成事業について一般質問があった。事業の目的、実施状況、事業費、成果については、実技指導のほか指導者の資質向上のための指導者講習も行っており、累計 8,241 名の子どもと指導者の参加があった。平成 27 年度の事業費は、委託料や用具代等を含め予算総額約 435 万円である。教室に参加した子ども達が各大会で活躍して優秀な成績を収めており、成果が実りはじめたものと捉えていると説明した。事業評価を行ったかについては、行政経営を検証し、進行管理を評価する「施策評価」を平成 27 年度も実施し、順調である旨の評価となったことを説明した。部活動の人数やスポーツクラブの会員数に変化はあったかについては、少子化による児童生徒数の減少はあるが、市内中学校の運動部活動の加入率は約 75%を維持している。スポーツ少年団の登録人数についても若干減少傾向ではあるが、加入率は県平均を上回っている。今後も研究、検討を重ねて、未来を担う子ども達が羽生市から日本で、そして世界へ羽ばたくトップアスリートに成長するよう努めていくと答弁した。</p>
	生涯学習部長	<p>島村勉議員から高齢者大学について一般質問があった。事業の中で社会見学がなくなったのは何故かとの趣旨であったが、参加者の平均年齢が 70 歳代後半と高齢化が進み、研修・見学先での徒歩の移動や階段の上り下りが不自由などの健康面の不安を抱え、参加を自粛している方も多いと伺った。このような現状を踏まえ各公民館での企画会議を経て取りやめたが、より多くの高齢者が</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 平成28年羽生市教育委員会後援名義の承認等の状況について (1月～6月分)</p>	<p>教育長</p> <p>教育総務課長</p>	<p>参加でき、今まで以上に魅力ある事業にするため、新しいかたちで実施する予定であり、今後もより一層の内容の充実を図ると答弁した。</p> <p>報告事項2について、教育総務課長から説明を求めた。</p> <p>後援名義の使用については、教育総務課1件、学校教育課4件、生涯学習課17件、スポーツ振興課15件の申請があり、このうち学校教育課の1件以外は承認されている。この1件の不承認は、事業の承認基準に合致しなかったためである。</p>
<p>報告事項3 平成28年度アドバンススクール審査結果について</p>	<p>教育長</p> <p>学校教育課長</p>	<p>報告事項3について、学校教育課長から説明を求めた。</p> <p>今年は思考力・判断力・表現力等の育成をテーマとして各学校の最先端教育活動についてプレゼンし、1次審査を経て6月3日に最終審査が行われた。ベストアドバンススクールは東中学校、eライブラリアドバンスを活用した「思考力・判断力・表現力等の育成」である。サーバー配信型の学習支援サービスの利用により学校でも家庭でも勉強を進め、「思考力・判断力・表現力等を育成する。ベターアドバンススクールの岩瀬小学校は教育課程特例校として英会話科が設置された流れもあり、英語による「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」、川俣小学校は昨年度のベストアドバンススクールの続きで、TV会議システムの活用による「思考力・判断力・表現力等の育成」。グッドアドバンススクールには手子林小学校、羽生南小学校、南中学校が選ばれた。その他選考外にはなったが、小中14校が全て参加した。</p> <p>報告事項4について、学校教育課参事兼学校給食センター所長から説明を求めた。</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項4 学校給食への「フィリピン共和国料理」の提供について	給食センター所長	フィリピン共和国の料理を学校給食で提供し、姉妹都市のバギオ市を身近に感じてもらう一助として6月29日に実施した。羽生南小学校の4年2組に秋本教育長とALTのアレックス先生が訪問し給食を一緒に食べた。11月にはベルギー料理の提供を予定している。
	教育長	報告事項5から8について、生涯学習課長から説明を求めた。
報告事項5 平成28年度羽生市人権教育研修会の開催について	生涯学習課長	8月8日に産業文化ホールにて開催する。講師は日本在住の数学者、大道芸人でもあるピーター・フランクル氏、演題は「ワタシは一体ナニジンなんだろう」である。当日は小中学生の人権作文の発表も予定している。
報告事項6 高校生インストラクター講座の開催について	生涯学習課長	9月10日に羽生実業高校コンピューター部の生徒を講師として「みんなのパソコン教室」、10月1日に同校園芸科の生徒を講師として「フラワーデザイン教室」を開催する。フラワーデザイン教室は今回新規に実施する講座であり、クリスマスリースを作る。羽生実業高校はフラワーアレンジメントで8年連続で県代表に選ばれて全国大会に出場した実績がある。
報告事項7 夏休みキャロットルームクールシェアについて	生涯学習課長	NPO法人羽生子育てサポートキャロットと中央公民館の共催で8月17日から19日の3日間で開催する。内容は、午前に学習タイム、手作りランチ、午後にリラックスタイムという構成を予定している。1日30名の定員に、各日50名以上の申し込みがある状況である。皆で手作りのランチを食べながら学び、子育て応援の一助としたい。
報告事項8 「羽生学講座Ⅵ」の開講について	生涯学習課長	県指定になった永明寺古墳について講座を開催する。9月17日から11月26日まで全5回の予定で、永明寺古墳の背景やそこから出土した武器や馬具、埴輪等に視点を当てていく。広報8月号に掲載して参加者を募集する。

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項9 日本フロアカーリング協会公認 全国フロアカーリング大会 in羽生の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>生涯学習部長</p>	<p>報告事項9、10について、生涯学習部長から説明を求めた。</p> <p>スポーツ振興課長の代理で説明する。6月18日に羽生市体育館メインアリーナとサブアリーナにおいて開催した。参加チーム数は108チーム、参加人数は393名であった。リーグ戦による予選の後、予選順位ごとに決勝トーナメント戦を行った。回を重ねるごとに競技レベルがアップし、特に1位グループの決勝戦は、見ごたえのある、白熱した試合であった。</p>
<p>報告事項10 第45回羽生市少年野球大会の結果について</p>	<p>生涯学習部長</p>	<p>6月18日、19日の2日間、羽生中央公園野球場と自由広場において開催した。参加チーム数は9チーム、参加人数は148名であった。大会運営全般をスポーツ少年団野球部会に委任しており、各チームの協力によりスムーズに進行することができた。各チームが日頃熱心に練習を重ね、トップアスリート育成事業での野球教室の成果もあり、各試合とも熱戦が繰り上げられた。</p>
	<p>教育長</p> <p>古市委員</p>	<p>報告事項に関して質問・意見を求めた。</p> <p>羽生学講座は、永明寺古墳という羽生市にとって大切なテーマで、素晴らしい講師の方たちが講演される印象である。この内容は参加した各回20人だけのものであると勿体無い。講義録等を作成して閲覧できるようにすれば羽生市にとっても財産になるのではないかと思う。</p>
	<p>生涯学習課長</p> <p>春山委員</p>	<p>永明寺古墳については、この講座と合わせて調査報告書を来年度にかけて作成している。講座の内容は、ホームページに掲載する等、何らかの形で広く伝えられるよう方法を考えていきたい。</p> <p>夏休みキャロットルームは、夏休みに1人で過ごしている子どもや親達に少しでも支援になればと実施することになったが、好</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>評であり、定員を超える応募があった。中には3日間通して参加する方もいる。学校と地域と家庭が連携して健やかな子どもを育てることが目標である中、支援の必要な子どもになかなか届かないことが私達の課題であるが、先日社会福祉協議会から連絡があり、社会福祉協議会が把握している支援を必要とする児童にターゲットを絞り、事業を行いたいという話があった。これにより目標に向け一歩踏み出すことができるのではないかと思う。</p> <p>生涯学習課長 NPO法人羽生子育てサポートキャロットが様々な活動をしていることを、生涯学習課を通してPRすることでその活動に賛同した方がキャロットに何かお願いするという流れを作ることが、私どもの役割と考えている。様々な広報手段を活用してキャロットの活動目標に少しでも近づけるよう支援をしていきたい。</p> <p>古市委員 素晴らしい取組みであり、活動の輪がどんどん広がっていけばいいと思う。社会福祉協議会との連携という話が出てきたが、それも凄く大切なことであると思う。健康支援を必要とするということであれば社会福祉協議会の所管であるとして、外国人居住者の家庭で、未就学であって幼稚園や保育所に行っていないような子どもについても本当に支援を必要とすると思われるが、どの部所が担当することになるか。</p> <p>学校教育部長 恐らく、子育て支援課になるのではないかと思われるが、幼稚園等にも通っていないとなると、リストに載らず、抜けてしまっている可能性がある。保・幼・小連携の中で話題にはなると思う。市民生活課では、住民票で外国人が住んでいるという把握はしているが、就学等の問題とは直接関与していない。</p> <p>生涯学習課長 児童相談ということでは子育て支援課、世帯単位とすると社会福祉課や社会福祉協議会という見方が出てくる。福祉関係部門内で連携し、情報を密にしながら対応していく必要があると思う。</p> <p>春山委員 広い視野での子育て支援に関して、教育委員会では学校教育課、生涯学習課、市長部局では子育て支援課、社会福祉課など、子どもに関わる各課が連携に努める、そのような組織が作れると良い。</p>

会議事件名	て ん 末	
	岩本委員	<p>保育園、幼稚園に来ていない子の情報をキャッチすることは意外と難しい。出生届けの次は健診で、健康づくり推進課が関わる。保育所及び保育園の関係、私立幼稚園の就園奨励費の事務は子育て支援課、生活困窮であれば社会福祉課、就学の年齢に近づけば教育委員会が把握する。春山委員も言われたとおり、子どもという切り口で組織を横断して情報を収集する必要があるが、現在ではそれぞれが分断されている状況である気がした。個人情報のやり取りの問題もあり、柔軟な対応をするには工夫が必要なのだが、現状は非常に苦勞している状況である。</p>
	教育長	<p>子育て支援課が中心となり開催した「羽生市子ども・子育て支援事業」の会議に出席したことがあるが、そこでの話し合いが縦行政を横に連携することができる会議であると認識している。</p>
	古市委員	<p>就学児健診の時点で日本語を話すことができない場合、4月までの間に日本語指導を行う体制は教育委員会にあるか。</p>
	学校教育課長	<p>学校教育課の立場としては、当然入学に向けて情報収集をしていかななくてはならないが、基本的には義務教育期間のこを受け持っている。就学前の日本語指導については子育て支援課で指導員に関する予算を確保し、学校教育課から対象となる子どもの情報提供を行うということはできるかもしれない。</p>
	学校教育部長	<p>補足だが、日本である程度の期間生活し、幼稚園、保育園等に通ってから入学する子どもについては、発達段階の中で日本語指導がどうしても必要という程ではない。日本語指導が必要になるのは、途中から入ってくる子どもに対してであり、学校教育課で所管する日本語指導員が関わっているのはそのような子ども達である。</p>
	岩本委員	<p>外国人の未就学の場合は、身元が把握しきれないことや、異文化による困難さも踏まえた形で関わっていかないと、そのまま就学すれば非常に困難な状況に陥ると思う。子育て支援課の範疇だと思うが、全体の中で話す機会があるならば話し合い、今後外国人が増えた場合に備えた方が良くと思う。</p>

会議事件名	て ん 末	
	柿沼委員	<p>アドバンススクールの審査結果について、各学校の特色が非常によく出ていると思う。それぞれの取組を続けていけば、本当に良い学校ができてくると思う。羽生南小学校の児童は読書袋を持っているという話を聞いたが、それを他校にも広げることができれば読書の量が増えていくのではないかと思う。</p>
	教育長	<p>読書量は学力に比例すると言われている。良いところは積極的にPRして羽生市全体に広げていきたい。</p>
	古市委員	<p>以前須影小学校に行った時に、学校図書館が非常に良く整備されていた。三郷市は図書館に力を入れていると聞いたことがあるが、羽生市の図書館司書等が先進の事例を視察に行く機会を設け、さらに独自の工夫を凝らせば良いと思う。学校図書館に関しては羽生南小学校がトップランナーとなり、他の学校もついていく、他のアドバンススクールの取組も同様に行い、羽生市の教育全体のレベルアップが図れるのではないか。</p>
	学校教育部長	<p>須影小学校の図書室の掲示や検索するための環境が非常に整っているのは、司書の配置に加えて地域の力も大きく、掲示物や飾り等は全て地域の方と保護者の手によるものである。</p>
	春山委員	<p>須影小学校の取組にある、「須影型アクティブラーニング」とはどのようなものか。</p>
	学校教育部長	<p>須影型アクティブラーニングとは、アクティブラーニングを行うことが目標ではなく、アクティブラーニングを実施していく中で思考力、判断力、表現力を深めることを目標として行っている。須影小学校では個人内思考活動の活性化や交流活動の活性化を図るために、教職員はどのような手段を取るかを明確にした上でそれぞれの授業に臨む。どのような発問をするか、導入をどうするか、目当てをどうするかを明確に持ち、アクティブラーニングを実施することが須影型である。さらに付け加えて、ICT端末を使つてのアクティブラーニングも行っていく。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>須影型アクティブラーニングについては、図式になっていて分かり易かった。しっかりと目当てがあり、手法も色々あるが、きちんと振り返りの機会を持ち、また最初の目当てに戻る形となっていて、若い先生でもこのような形で授業を行えば、良い授業になるというベーシックな須影型アクティブラーニングが構築されたことが印象的であった。</p>
	柿沼委員	<p>学校給食でのフィリピン料理の提供について、大変美味しかったという感想が聞こえてきた。給食を楽しみにして学校に行っている生徒もいるようで、ベルギーのワッフルやムール貝の料理も期待していると思うので、続けて行っていただきたい。</p>
	給食センター所長	<p>今回羽生南小学校にフィリピン出身のアレックス先生を迎えたのは、地元の食材がどのようなものを説明してから子ども達に食べてもらおうと、本当に美味しく感じるのではないかという意図があった。当日は急遽校内放送を使い、献立の説明をした。11月に予定しているベルギーの料理では、昨年度シチューで提供したムール貝が、子どもによって好き嫌いがあつたり、欧米型の食事はカロリーが高く、学校給食の摂取カロリーの基準をオーバーしてしまう傾向にあるため、現在栄養士が悪戦苦闘し献立を考えているので、楽しみにしていただきたい。</p>
	教育長	<p>栄養教諭の方がコストの面も考えながら、子ども達が気に入るように工夫してくれた。児童が2回もおかわりする等、食欲旺盛でとても良かった。11月のベルギー料理の時には、教育委員の皆様にも学校を訪問していただき、子ども達と一緒に食事する機会を設けてはいかがか。</p>
	給食センター所長	<p>前向きに検討させていただきたい。</p>
	岩本委員	<p>市議会で質問された組体操の安全管理について、関西の方ですごく大きなピラミッドを作り、大きな事故が発生したことについて、その学校の中で危険性を評価する機能が麻痺しているのではないかという指摘があり、それは一理あると思う。一方で、それが極端な例であるとする、それによって学校現場が委縮し、あ</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 議案第42号 羽生市産業文化ホール指定管理者選定委員会委員の委嘱又は任命について</p>	<p>学校教育部長</p>	<p>る程度子どもに必要であることも行わなくなってしまうことも良くないと思う。新たに組体操を行わなくなった学校があるとの事だが、複雑な気持ちでこれを聞いたところである。</p> <p>大阪で事故が起きたのは10段以上のタワーだったかと思うが、5段、6段のピラミッドでも周りに教員を配置する。それでも事故は起きるときは起きる。骨折や後遺症が残るような事故も絶対ないとは言えない。組体操は子供たちの団結心を養うことや、一体感を味わうこと、我慢する力を養うことも期待できるが、それに対しリスクが大きいこと、練習にかかる時間が年々増えていることが現場からの意見としてある。子ども達が重い物を持ち上げたり、痛さを我慢することに慣れていないため、技自体は昔より簡単にしているにも関わらず、練習に時間がかかっている。学校の体育の教育課程に組体操はないことも含め、総合的に勘案して取り止めた学校もある。</p>
	<p>岩本委員</p>	<p>保育園にある雲梯は、一昔前の半分くらいの高さである。かつては雲梯を登り切り、その上を子どもが歩いていた。今はそれができない。その位体力の差が出ているのは事実である。今の子ども達の様子を考えながら、適切なものを考えていることはよく分かる。</p>
	<p>教育長</p>	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	<p>教育長</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>議案第42号について生涯学習課長から説明を求めた。</p> <p>現在産業文化ホールの指定管理者の更新手続きを進めており、新たに指定管理者を選定するための委員会の委員を委嘱又は任命するものである。委員の構成は自治会連合会等から推薦された識見を有する者及び羽生市副市長、企画財務部長である。任期は8月1日から市と指定管理者が協定を締結するまでである。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教委長	議案第 42 号について意見・質問を求めた。
		特になし
	教育長	議案第 42 号については、よろしいか。
		異議なしの声あり
	教育長	議案第 42 号については、可決された旨宣した。
	教育長	次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。
	教育総務課長	8 月定例教育委員会は、8 月 4 日午後 1 時 30 分より羽生市立図書館にて開催する。
	教育長	<p>閉会を宣した。</p> <p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>